

第20回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

●日時 令和6年3月18日（月）10:00～12:00

●会場 京都府立中丹勤労者福祉会館
（オンライン会議システム併用）

- 議題
- (1) 令和6年度京都府介護・福祉人材確保総合事業について（北部地域関連）
 - (2) 京都府北部福祉人材養成システムの進捗について
 - ア 京都府北部福祉人材養成システムに係る3拠点の取組状況について
 - イ 京都府北部福祉人材養成システム推進事業について
 - ウ 京都府北部7市町の取組状況について
 - (3) 情報提供・意見交換
 - ア 北部福祉フィールドワークの受入と人材確保について

●説明・協議の概要

(1) 令和6年度京都府介護・福祉人材確保総合事業について（北部地域関連）
（説明：事務局）

- ・令和6年度京都府介護・福祉人材確保総合事業の概要を説明

(2) 京都府北部福祉人材養成システムの進捗について

ア 京都府北部福祉人材養成システムに係る3拠点の取組状況について

（説明：現任者研修施設）

- ・平成27年度以降の実務者研修修了者は約400名。その内、約280名の介護福祉士試験合格を確認している。
- ・今年度の資格関連研修の受講実績は、実務者研修39名、初任者研修18名。行政からの依頼により4年ぶりに喀痰吸引研修を実施したところ、8名の参加があった。
- ・現任者研修では綾部市と協働し、初任・中堅・リーダー向け研修等を実施した。

（説明：介護福祉士養成校）

- ・全国の介護福祉士養成校の定員充足率は約51%（留学生含む）。本校も学生確保に苦慮しており、定員充足率が最も高い年度で57.5%、令和5年度は45%であった。
- ・令和6年度の入学者数は15名（40名定員）を見込んでいる。
- ・厳しい定員充足率ではあるが、多くの卒業生が福祉施設に就職しており、着実に人材確保に繋がっている。
- ・高校生を対象に介護福祉士の魅力を発信する際には、「DX介護福祉士」といった名称を用いて、テクノロジーと融合させた高度人材であることをアピールしている。
- ・すそ野を広げることを目指して、舞鶴市と協働したイベントにも取り組んでいる。

（説明：実習施設）

- ・今年度2月末時点の実習等受入実績は延べ437名、実人数は251名
- ・コロナ禍ではオンラインの活用により受入件数は増加したが、学生からは実地での受入を

希望する意見が多かった。

- ・近年の傾向として、インターンシップが増加しており、昨年度からは（福）南山城学園と連携したプログラムを学生向けに提供している。

イ 京都府北部福祉人材養成システム推進事業について

（説明：事務局）

- ・北部福祉人材カフェ運営事業については、福知山市の工業地域の求人が増え、雇用条件も良いことから介護・福祉人材の内定獲得に苦戦している。
- ・昨年度と比べ、来所相談が増えているので、現場体験に繋ぎながら内定獲得に取り組んでいる。
- ・離職者向け普通職業訓練の実績について、中丹会場は修了者13名・内定者7名、丹後会場は修了者14名・内定者12名。引き続き就労支援に取り組んでいく予定
- ・大学実習受入事業では、6大学から58名の学生の参加があった。
- ・人材誘致・業界参入促進事業として、介護助手の働き方セミナー・施設見学会を実施した。

ウ 京都府北部7市町の取組状況について

（説明：福知山市）

- ・令和6年度の当初予算に「福祉職場見学ツアー」を計上
- ・福祉理解を趣旨として、小・中学生とその保護者を対象に、夏休み等にバスで複数の福祉施設を見学するもの。詳細については、予算確定後に検討する。

（説明：綾部市）

- ・令和6年度から「介護支援専門員研修の受講料補助」（新規）を実施する。

（説明：宮津市）

- ・若者や子育て世帯の定住施策として、「定住促進住宅整備事業」に取り組んでいる。令和4年度には市営住宅「城東タウン」の空き家6戸をエッセンシャルワーカー向けにリノベーションしたところ、全てで入居者が決定した。その後も若者世代の定住促進を目指して事業を継続し、就職フェア等で市内での仕事と併せて住居のPRに取り組んでいる。
- ・令和6年度には、新規事業として関係人口づくりに取り組む予定。詳細は未定であるが、市営住宅「城東タウン」の4戸（各2階建て）を試行的に大学連携やフィールドワークの拠点として活用する。半年から1年の契約となる見込みで、府内の大学から活用を検討いただいているところ。

（3）情報提供・意見交換

ア 北部福祉フィールドワークの受入と人材確保について

（説明：事務局）

- ・北部福祉フィールドワークについて、次の内容を説明
 - ①武庫川女子大学の受入プログラム（与謝野町）及び学生アンケートの結果
 - ②法人間連携での学生受入の好事例
 - ③令和5年度の成果
 - ④令和6年度の目標（市町の特徴を生かしたプログラムのパッケージ化及び介護・福祉の仕事と府北部地域での暮らしをイメージできるロールモデルの提供）

(意見：京都社会福祉士会)

- ・昨年度の武庫川女子大学の学生受入が町内の事業所等から大変好評であったため、今年度も受入を快諾した。
- ・通常、社会福祉士実習の受入は、1つの事業所で完結することが多いが、町として学生を受け入れる視点で取り組んだところ、事業所間の連携やそれぞれの強みを再確認することに繋がった。また、町内の事業所やジョブパークと協力して実習生の送迎等を担っていただいたため、実習指導者の負担が軽減されたように思う。学生の受入をとおして、高齢、障害、児童といった分野間の相互理解も深まった。
- ・実習初日は福祉への就職を迷っている学生も多かったが、最終日には好意的な意見も聞かれ、我々としても学生の成長を感じた5日間であった。

(意見：与謝野町)

- ・人材確保を地域課題と捉えて町全体で学生を受け入れたことにより、事業所間の横の繋がりが構築されたように思う。

(意見：京都府老人福祉施設協議会)

- ・自法人での取組であるが、地域においてサロン活動やお祭りの担い手が不足していたため、積極的に職員を地域活動に派遣することを始めた。施設から地域に働き掛けたことにより、地域の方に施設での仕事に興味を持っていただくことに繋がり、短時間でも働く仕事がないかと声を掛けていただいた。
- ・今年度、新たに3名の外国人材を雇用した。住宅の確保が難しかったが、地域の方から空き家を借りることができた。
- ・福祉系学部ではない新卒者を採用したが、福祉分野で働くことが不安であると聞き、仕事以外のタスクを持ってもらうことも必要であると感じた。

(質問：京都府)

- ・新卒者はIターンでの就職か。

(説明：京都府老人福祉施設協議会)

- ・農業を入口としてIターンした方をダブルワーク人材として採用した。府北部地域においては他産業と連携して人材確保を進めていくことも大切である。

(意見：京都府介護老人保健施設協会)

- ・当協会にて業界内の生産性向上に係る先進的な取組を共有することで介護のイメージアップや働きやすい職場を推進し、定着率の向上に取り組んでいる。
- ・人材確保の傾向として、人材派遣会社が活用されているが非常にコストが高く、職員の給料のベースアップに繋がらない状況がある。また、他業界の景気が良いので転職する方も多く、介護助手や外国人介護人材等の多様な人材を受入れながら人材確保に取り組んでいるところ。

(意見：京都知的障害者福祉施設協議会)

- ・障害分野では、多様な人材の参入を歓迎しており、芸術系学部出身者等それぞれの特技が発揮される職場である。一方で外国人材は支援における価値観の共有に難しさを感じる場面があるため、受入れの難しさを感じているところ。
- ・京都市内では学生アルバイトが雇用されているが、北部地域でも受入れを進められないか。
- ・令和6年度から奨学金返済支援制度として、法人から補助する取組みを始める法人がある

と聞いた。

(意見：京都府介護福祉士会)

- ・ 当会では、介護福祉士資格の取得後も基礎研修から始まり、認定介護福祉士へとスキルアップをサポートする取組がある。スキルアップによって職場でやり甲斐を持って働いていただくことが人材の定着に繋がると考える。
- ・ 多くの介護職員が真摯に業務に向き合っているが、虐待のニュースによって介護職のイメージが悪くなっている。当会では介護の魅力発信と入会促進に係る2種類の動画を公開し、魅力発信に取り組んでいる。
- ・ その他、外国人技能実習生を指導する職員向けの研修や一般向けに若年性認知症に関連した映画の上映会の開催等に取り組んでいる。
- ・ きょうと福祉人材育成認証制度や各種処遇改善加算等、小規模な法人には難しい取り組みもあるため、制度設計に配慮をお願いしたい。
- ・ Iターン等で北部地域に就職する場合、車がないと生活できないため、仕事の魅力発信だけでなく、生活支援も必要ではないか。

(質問：京都府)

- ・ Iターンで就職した職員への生活支援はどうか。

(説明：実習施設)

- ・ 当法人では、毎年20名程度採用し、6・7割がIターンでの就職である。社宅を用意しているが全員は入寮できないため、家賃補助や宮津市営住宅をリノベーションした「城東タウン」も活用させていただいているところ。都会から就職する方は免許を持っていないことや免許を持っていても車を所有していないことがあり、府北部地域での生活に苦労する場面がある。

(意見：京都府看護協会)

- ・ 当協会では、看護職の確保・定着の拠点として、ナースセンターにおいて無料職業紹介事業に取り組んでる。当該センターでは、就業相談を一つの柱として、潜在看護師の掘り起こしに注力し、再就業にあたってはブランクの長い方もおられるため、実技を含んだ研修に取り組んでるところ。今年度は300人を超える方に受講いただき、特別養護老人ホームや介護老人保健施設での体験研修を実施したところ、就業に繋がったケースもあった。また、研修は看護師だけでなく採用側の施設にも参加いただき、福祉職場で働く看護職の事例も報告いただいた。福祉職場で働く看護師は年々増加しているが、具体的な業務の周知が不十分であるため、今後も研修をとおして役割や働き甲斐についてPRしていきたい。

(意見：福知山市)

- ・ 与謝野町で取り組んだ福祉フィールドワークのプログラムを共有いただきたい。

(説明：京都府)

- ・ 後日、プログラムを共有する。

(意見：福知山市)

- ・ 京都府における生産性向上に係る取り組みについて、令和5年度の実績や事業所における効果はどうか。

(説明：京都府)

- ・ 介護ロボット等導入支援事業については、補助事業者から導入効果の報告を受けることと

なっている。定量的に評価できている事業者は少ないが、集計を共有したい。

- ・介護助手については、モデル事業として、業務の見直しから業務のサポート人材の採用に取り組んだ。好事例の横展開が目的であるため、来年度に成果を共有したい。

(意見：有識者)

- ・これまで社会福祉士の合格率は30%前後であったが、令和5年度は58.1%であった。この結果は、新カリキュラムに移行する最終年度の試験であったため、受験者が殺到したことも考えられるが、国がこれだけ多くの合格者を出したことは今後社会福祉士資格を持つ福祉人材を現場で起用していきたい意向があるのではないかと。
- ・また、合格者の年齢別内訳は、20・30歳代が42%、40～60歳代が35%であり、転職希望や第2の人生において社会福祉士資格を活かしていこうという思いがあるのではないかと。
- ・北部福祉フィールドワークでは、2箇所以上の受入れ先でプログラムを組んでいただき、行政や社会福祉法人が連携した取り組みが進められているが、社会福祉士の新カリキュラムにおいては、引きこもり地域支援センター等の事業の受託先も受入れ対象となっているため、今一度対象となる実習先をご確認いただき、積極的な受け入れをお願いしたい。
- ・人材確保については、潜在する人材をいかに見つけて、ワンポイントでの活用など様々な雇用形態で採用することも必要ではないかと。隣接領域である看護分野から学ぶこともあるのではないかと。